



2022 年度
第 37 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
体育市民連帯執行委コラム
スポーツ心理学専攻者が
考えるスポーツメンタル
トレーニングの文化



2
李ギュヒョン
未成年の教え子への
性的暴行の場面
違法撮影を行った



3
大学入試
最低学力と学生簿
そして実技テスト



4
ゴルフの有望株が
増えているのに…
訓練環境は
むしろ悪化



5
2022 年
スポーツ英雄
最終候補



大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけませんか？



01 体育市民連帯執行委コラム 2022.9.19

スポーツ心理学専攻者が考えるスポーツメンタルトレーニングの文化

アン・ソンフン/体育市民連帯事務次長

まず質問を一つすると、「メンタルトレーニングをするスポーツ選手」という表現に抵抗があるか？ 拒否感どころか「当然するべきではないか？」と考えることもできる。それでは「スポーツ心理相談を受けるスポーツ選手」はどうか。語感上、何か運動選手として心理的に問題があると思わないか？ もしかしてメンタルトレーニングとスポーツ心理相談が違うように感じられるかと質問を投げてみた。

二つの単語は同じ概念だ。語感が与える違いもあるが、わずか10年前までは実際のスポーツ現場では互いに別の概念だと考える文化が強かった。私はこの時、大学院生の身分で先輩や指導教授の心理支援を補助するために現場に出てみると、選手たちにメンタルトレーニングは必ず競技力のために必要だと認識されながらも、相談や教育を受ければ拒否感を表す文化だった。

運動選手たちが受けるスポーツ心理相談は一般的に臨床心理学で接近する相談とは異なり、技量向上のためのメンタルトレーニングを意味する。

すなわち、相談を通じて心理技術訓練を進行するために遂行的側面でスポーツ科学の一部として活用されなければならないにもかかわらず、そうできなかった過去のスポーツ文化を極めて主観的な観点で話してみようと思う。

今はメンタルコーチとして活動しているが、幼い頃運動をしていた。選手時代、メンタルがそれほど良い方ではなかった。いつもうまくできるか心配が多く、自信を運で考える選手だった。ある日は「なんだか上手そう！」、ある日は「なんだかできそうにない…」こういう考えを繰り返しながら運動生活を終えた。今はどんな原理によって自信が形成されるのか分かるようになったが、その当時、試合前日の夜には普段キリスト教である私が神様と共に仏様、アラー神、童子神を探すほどだった。

80年代生まれとして、私が運動するまでメンタルの重要性はあまり浮き彫りにならなかった。ただ、勝気と闘志という二つの単語が私の知っているメンタルトレーニング？の全てだった。一步遅れて知ったが、メンタルトレーニングの根本となるスポーツ心理学という学問は、当時多くの研究が進められていたにもかかわらず、現場では存在すら知らなかったのが事実だ。日常で心理的な問題で精神科の相談を受けるということを徹底的に隠す文化だったので、もしスポーツ心理相談の存在を知っていても、時代背景から相談を受けに行かなかっただろう。

運動選手として心理的問題は無条件に自ら克服しなければならなかった。「先生、自信がありません」と言えば自信ができるまで殴られそうだった。似たような意味でもそんなことが言える雰囲気ではなかったと記憶される。一度は両親に心理的問題を話したことがあるが、「運動選手は気合と度胸で乗り越えなければならない」という激励？を聞いた。そのような文化だった。私だけでなく、私が属しているチームと地域、種目を越えて運動という領域で同じだった。スポーツ選手なら「精神力」一つだけは強くなければならなかった。実力が足りなくても精神力一つで持ちこたえろという言葉は私が選手時代いつも聞いた話の一つだ。

ある日コーチが選手団全体を指しながら、「お前たちはどうして自信がないんだ、そんなに度胸がないの？」　そう言いながら体力運動をさせた…。一体自信と度胸は何の関係があり、自信がないのに体力運動をさせるという考えで反感と反抗心が満ちていた。徐々に体力運動が体罰のように感じられ、必要であることを知りながら、運動選手生活の間、避けてきた。あえて推測するのだが、コーチは体力が強くなれば、度胸と自信が同時に向上するという考えではなかったか…

今は心理的問題を心理訓練で対応する文化のようだ。もちろん、今もすべての選手が心理的問題を専門家に助けてもらわないが、過去に技術と身体を鍛えるプログラムが主だったスポーツ現場でメンタルトレーニングの活用性を議論して適用するという事は非常に鼓舞的だ。政策的な側面でも心理支援のために予算を編成し、一部の運動選手が恩恵を享受しているということは、現在のメンタルトレーニングの位置を間接的に代弁しているとも言える。

次第に良い成績を取めた選手たちがメンタルトレーニングの効果をマスコミに言及し、大きくは政策の変化、少なくは選手とチーム関係者および保護者まで多くの関心を持つようになった。国家的支援と共にプロと国家代表選手が必要に応じてメンタルコーチを自費で迎え入れ、国内大会はもちろん国際大会にもコーチングステップの一員として一緒に試合日程を消化することもある。各協会では指導者を養成する過程でスポーツ心理学科目を必須項目に指定し、多角的な側面で専門性向上の機会を提供している。

プロチームをはじめアマチュアチームでも指導者がメンタルトレーニングを導入する試みが増加しており、単発性の講演招請から6ヶ月、1年などの単位契約でメンタルトレーナーを雇用する事例がこれを代弁している。韓国スポーツ心理学会でも現場性と専門性を備えたメンタルトレーナーを養成するため、学問的、制度的な努力を続けている。「スポーツ心理カウンセラー」という資格証が雨後の竹の子のように生じている状況が憂慮される部分が多いが、ある側面では関心としてに見えることもある。

このような変化で選手たちも心理相談を受けることに対する拒否感が多少減ったようだ。今は「私は心理相談を受けた」あるいは「私のメンタルコーチだ」という言葉を堂々と同僚たちに言う。さらに、管理されているという安定感を与えているようにも見える。このようなスポーツ現場でエリート選手たちが心理的問題を一人でくよくよ悩むよりも心理専門家の助けを受けて後悔のない選手生活を繰り広げていくのに多くの助けを受けて欲しい気持ちで、メンタルトレーニングの重要性と役割がさらに拡張されていくことを希望する。そしてもう一度強調したい。「自信の問題は体力訓練ではなく自信をつけるためのメンタルトレーニングで!!!」　トラウマだったようだ…

02 ノーカットニュース 2022.09.19

李ギュヒョン「未成年の教え子への性的暴行」の場面、違法撮影を行った



未成年の教え子に性的暴行を加えた疑いで裁判にかけられた李ギュヒョンコーチが犯行当日、場所を移しながら数回性的暴行を試みただけでは足りず、不法撮影までした事実が追加で確認された。

18日、CBS ノーカットニュースの取材を総合すると、議政府地検南楊州支庁刑事1部（ソン・ジョンスク部長検事）は先月末、李容疑者を強姦未遂容疑とともに、性的暴力犯罪の処罰などに関する特例法違反（カメラなど利用撮影）容疑も適用し、拘束起訴したことが分かった。

李氏は今年初め、大学入学を祝うという名目で自分が教えていた未成年の弟子を呼び出して酒を飲ませた後、性的暴行を試みた疑惑を受けている。

李容疑者の犯行は一度では終わっていない。容疑者は犯行当日、場所を変えながら数回にわたって性的暴行を図ったことが分かった。さらに、この過程で不法撮影をした事実が捜査を通じて明らかになった。にもかかわらず、李容疑者側は犯行を全面否認している。

検察の起訴に先立ちソウル松坡警察署は6月17日、同じ疑惑で李氏を検察に送致した。ソウル東部地検を経て7月に事件を移送された南楊州支庁は捜査を継続し、約2ヶ月ぶりに李氏を拘束起訴した。現在、李氏は議政府刑務所に収監されている。

検察は令状請求当時、李氏の家族がスケート界で大きな影響力を行使しており、2次加害の恐れがあるという点を強調したという。

実際、李氏一家は「スケート一家」として有名だ。李氏はスピードスケート国家代表出身の李ギョヒョク監督の弟で、父親の李イクファン氏もスピードスケート選手出身、母親の李インスク氏は全国スケート連合会会長を務めたこともある。

李氏も1998年長野、2002ソルトレイクなど2度オリンピックに出場した国家代表出身で、2003年現役引退後、コーチとして活動してきた。

「体育界性暴行」問題は2019年チョ・ジェボムコーチの弟子性暴行事件以後、文化体育観光部など政府機関が根絶対策を出して3年ぶりに再び水面上に浮上した。

専門家らは、「体育界の性的暴力問題が繰り返し発生するのには、コーチなど指導者に強力な権限を置く閉鎖的な構造にも原因がある」とし、「権力分散が必要だ」と口をそろえた。特に「スケート一家」と呼ばれる李氏の場合、被害者が感じた圧迫がはるかに大きかったとし拘束措置が適切だったと指摘した。

湖西大学社会体育学科のチュ・ジョンミ教授はCBSノーカットニュースとの通話で「李氏の両親が大韓体育会女性体育委員会分科委員会委員として活動するなど人脈が強大だと知られている」とし「この事実が被害者には途方もない圧迫になりかねず懐柔と脅迫に露出する可能性もある。拘束などの措置が必ず必要だったと思う」と述べた。

彼は「選手たちの身体を大事にせず、ぞんざいにしても良いという考えが集中した権力から出てくる」とし「上級学校進学権、出場権などすべての権限がコーチに集中しているのが現実であり、これを防ぐためには学校長が積極的に介入するなど牽制装置が必要だ」と説明した。

それと共に「オーストラリアの場合、権力分散がよくできているが、コーチが暴行した場合、学校の行政室に全て報告され、以後、行政室で直接措置する」とし、「このように学校長が積極的に介入してコーチが今きちんと子供を教えているのか、周期的に人権教育を受けているのかを確認している」と述べた。

さらに、2年前にできたスポーツ倫理センター分院の設立や人員拡充が必要だと説明した。

チュ教授は「スポーツ倫理センターに勤める職員が現在40人程度しかいない」とし、「その程度の人員では人権教育管理と事件調査、抜き打ち点検などができない」として人員拡充が必要だと強調した。

続いて「中央から遠いほど監視が少なくなり、地方でむしろ指導者の性暴力事件がより多く起きる傾向がある」とし「地方にもセンター分院を設立し、地方で直接運営されるようにしなければならない」と付け加えた。

一方、李氏の初公判は20日、議政府地方裁判所南楊州支院で開かれる。

出典：<https://www.nocutnews.co.kr/news/5819060>

03 バスケット코리아 2022.09.12

大学入試、最低学力と学生簿そして実技テスト



秋期大会を最後に高校アマチュア全国大会がすべて幕を閉じた。高校3年生のバスケットボール選手たちは大学進学と関連した現実と向き合うようになった。

バスケット코리아は大学入試シーズンを迎え、大学の入試制度の現況と現実を整理してみた。

大学総長スポーツ協議会（以下、KUSF）に登録された12の大学体育特技者（バスケットボール）選考で選抜する人数は計62人だ。

来る9月のKBL新人ドラフトに参加する4年生は29人だ。早期ドラフトを申請した10人を含めれば、1年に大学に入学する学生のうち50%程度だけがプロドラフトを準備する程度だ。

そのうち20人前後がプロに進出するのを見ると、大学入試から激しい競争を通じてバスケットボール選手としての人生を生きていくことになる。

大学入試はどのように準備すればいいのか。第1弾で試合実績を扱った。今回は最低学力と学生簿、そして実技テストについて見てみようと思う。

まず、最低学力について見てみよう。

大学の指導者と高校の指導者たちが最低学力を要求する延世大学、高麗大学、成均館大学に対する最低学力基準を尋ねると、内申7等級または6等級と答える。しかし、7等級ではない8等級選手も最低学力を通過できる基準案について説明する指導者は多くない。

元点数、標準点数、履修単位などに対する理解度がないため、単純に等級だけで最低学力通過基準を設定するのが現実だ。実際、父兄たちも内申等級で答える親が多く、そのため22年入試で混乱があったのは事実だ。最低学力基準にならない選手は修学能力試験を受けなければならない、修学能力試験で韓国史5等級以上を達成して最低学力基準を達成することもある。

最低学力達成が難しい学校は自律型私立高校であるフィムン高校、樂生高校だ。相対的に易しい学校は、地方の某学校とソウル広信放送芸術高校と三逸商業高校が代表的だ。地方の某学校はチーム成績が良くはないが、大学進学では良い結果を着実に導き出した。

特定大学が要求する最低学力も実際に自私有（訳注：自立型私立高校、学校別に多様で個性ある教育課程を実施する高等学校）でも達成できる水準だ。中間試験、期末試験以外にも遂行評価を通じて最低学力を通過した事例があることが確認されている。これはやはり本人の努力にかかっている。

入試願書に添付する学生簿資料は学生選手の高校生活全般にわたる活動事項、出欠事項/各学期別成績表だ。前回の資料で明らかにしたように、学生簿の書類は入試において非常に重要な部分だ。管理に緻密でなければならない。

大部分の高校も「勉強する学生選手」という名目で大学のように授業を受け、午後の運動と放課後の夜間運動を通じて実力を育てている。また、病気などでなければ出席日数も満たさなければならない。入試で一定部分反映されるからだ。

1次書類選考後、実技を進める大学もある。中央大学、成均館大学、東国大学、明知大学は実技選考を通じて選手選抜を行う。実技内容も大学ごとに異なるため、これに対する準備をしなければならない。受

験生と大学在学学生間のゲームを通じて実技を進行する大学は選考が終わっても公正性に対する論難が発生したりもする。

このように入試が多様に行われるため、高等学校指導者、保護者、選手は常に緊張するしかない。問題点も多様に導き出されている。

まず、最近の大会で不正選手(転校規定で1年間出場停止)がゲームに参加し、中高連盟から該当学校のバスケットボール部長が資格停止2年を受けた事実もある。

このような情報提供はほとんど保護者から行われる場合が多いが、京畿道所在の某学校も春季大会で不正選手の出場に問題が発生したこともある。

高校の指導者たちは高校3年生の進学による大会出場権限を持っているため、様々な形の副作用(?)が発生したり、誤解によって困惑する状況を経験したりもする。これに加えて、選手または両親間の葛藤が生じ、チームの雰囲気はめっちゃくちゃになる事例も少なくない。

入試による混乱が、高校の指導者と選手にまだ慣れている環境ではないようだ。個人記録も重要だが、毎試合でランニングタイムも入試で重要な要素だからだ。

実際、大学は入試過程で良い選手を選抜する努力よりは、入学した選手を成長させなければならないことにもっと気を使うのが正しいのではないかと思う。もちろん異見が多い部分であることは明らかだ。チームスポーツだから、選手構成で成績の下げ幅が大きい種目がバスケットボールだからだ。

高等学校指導者は選手たちを入試試験に導くのではなくバスケットボール選手として成長できるよう技量発展にさらに気を使わなければならないが、入試制度により現実がそうではないということだ。

バスケットボールは確かに大学入学において他種目とは異なる特性が存在する。例えば守備力を評価する数値が加わらなければならない。その部分が抜けている。バスケットボール界全体が一丸となって話をしなければならぬ部分だ。中高連盟が公正性確保のためにさらに気を使わなければならない要素といえる。

出典：<http://basketkorea.com/news/newsview.php?ncode=1065583402373831>

04 アジア経済 2022.09.14

ゴルフの有望株が増えているのに…訓練環境はむしろ悪化



アマチュア学生ゴルフ選手の規模が COVID-19 事態以後に増加したが、費用負担が増えトレーニング環境はさらに悪化したという指摘が提起されている。特に、財政的負担を抱えてプロ選手になっても、上位2%程度のプロ選手を除けば、安定的な生計を維持するのが難しいため、進路選択を慎重にしなければならないというのが専門家らのアドバイスだ。

●ゴルフブームで有望株も再び増加傾向…上位2%に入っこそ「安定的な生活」

14日、大韓体育会によると、小学校から大学まで学校の運動部に所属する学生ゴルフ選手たちは9月1日基準で2325人だ。2000年5538人だった学生選手は減少し続け、2020年には2023人まで減少した。し

かし、新型コロナウイルス感染症事態と共にゴルフブームが起き、昨年は 2246 人で前年比 11%増えた。今年も昨年より 80 人以上増加した。

一方、プロ選手への道は並大抵ではない。韓国プロゴルフ (KPGA) と韓国女子プロゴルフ (KLPGA) によると、KPGA ツアープロは 2351 人、KLPGA の正会員は 1521 人に過ぎない。学生選手の立場では針穴を通らなければならないのが実情だ。

このような関門を通過したとしても相当数のツアープロ環境は思ったより劣悪だというのが業界の話だ。純粋な大会参加だけでは生計が苦しく、副業をしたり途中で選手生活を辞める場合が多いということだ。ゴルフ業界は賞金だけで十分に生活できる選手は全体の 1%程度、スポンサー支援まで合わせても 2%程度と見ている。

●高いグリーン費用、トレーニング環境は悪化

練習環境もむしろ悪化したというのが現場の声だ。このため、ゴルフ界が成長環境の改善に積極的に乗り出すべきだという主張が提起されている。

ジュニア選手の成長の代表的な障害はトレーニング費用だ。

ゴルフの特性上、フィールドトレーニングが必須だが、関連費用は全て選手個人負担であるためだ。運動場や体育館などでほとんどトレーニングが行われる他の運動種目との違いだ。

特に最近、主要ゴルフ場の競争的なグリーンフィーの引き上げは、トレーニング環境に悪影響を及ぼしている。COVID-19 事態以後、グリーンフィー引き上げ率は 30%に達する。キャディ費も高騰し、厳しさは増している。先月、韓国ゴルフ消費者院によると、昨年、国内ゴルファーが支払ったキャディ費は、2011 年の 6516 億ウォンと比べると、2.4 倍増加した 1 兆 5934 億ウォンであると推算された。

韓国ゴルフ場経営協会の調査によると、ゴルフ場産業全体の市場規模(ゴルフ場売上高+キャディ費)は 2020 年 7 兆 66 億ウォンで、前年比 18.3%急増した。

学生大会の誘致をはばかるゴルフ場も学生選手の成長を阻害する要素の一つだ。一例として、京畿道ゴルフ協会が主催する学生ゴルフ大会は、管内のゴルフ場を確保できず、数年間毎年全羅北道所在の群山 CC で開催されている。京畿道には 170 ヶ所を超えるゴルフ場があるが、学生大会のためにゴルフ場を貸せばゴルフ場では売上に損害を被るためだ。

これは最近、主要大会で注目されている南アフリカ共和国の環境とも比較される。南アフリカは立派なゴルフインフラを整えているという。ゴルフ場が 490 ヶ所にもなる上、グリーンフィーが安い点がゴルフ底辺拡大の土台になっているという分析が出ている。米女子プロゴルフ (LPGA) ツアー 2022 シーズン最後のメジャー AIG 女子オープンで生涯初優勝を獲得し、アシュリー・ブハイ、LIV ゴルフシリーズ第 1 戦初代チャンプのチャール・シュワルツェルと第 2 戦でトップに立ったブランドン・グレイスなどが、いずれも南アフリカ出身だ。

●成績至上主義から脱するべき

成績至上主義文化が選手の潜在力を阻害するという指摘も出ている。

「ゴルフダディ」出身として広く知られた朴ノスン大韓ゴルフ協会競技委員は、「焦りと欲を持つようになれば、短期的に当面の成績だけに汲々とすることになる」とし、「本当に大選手に育てたいなら、初めてゴルフ活用法を教える時からゴルフになじみ、スイングを自由にできる機会を与えなければならない」と助言した。

朴委員は主要選手の事例も挙げた。「米プロゴルフ (PGA) ツアーで 12 回優勝したバーバ・ワトソンや LIV に移籍したマシュー・ウルフなど有名海外プロ選手を見ると、私たちが到底理解できないスイングをする場合が多い」とし、「一方、国内アマチュア大会を見ると、カットを通過した 65 人全員がほぼ同じスイングを駆使する」というのが彼の説明だ。個人の特性を無視した千篇一律的な教育方式がかえって選手の成長潜在力を阻害するということだ。

●学業＋ゴルフ並行システムの定着が必要

一方、プロになりにくいだけでなく、プロになっても選手生活だけで生計を維持できるようになる可能性が低いだけに、幼い頃からゴルフ以外の第 2 の道を準備できるようにしなければならないという提言も出ている。

実際、昨年 6 月に改正された学校体育振興法は、2024 年から最低学力に及ばなかった学生選手の大会出場を禁止している。必要な場合にのみ大会出場を制限していた従来の規定より一層強化されたのだ。

今年 3 月には教育部が学生選手の学習権保障制度を強化する内容を盛り込んだ「2022 年学校体育活性化推進基本計画」を発表した。計画は最低学力制未達学生選手の参加制限大会規模と範囲規定根拠と最低学力制基準準備を骨子とする。

朴委員は「ゴルフは勉強と並行するのに相対的に容易なスポーツ」とし「重要なことは勉強をあきらめてはならないということ」と話した。

出典：<https://view.asiae.co.kr/article/2022090214265818600>

05 聯合ニュース 2022.09.19

2022 年スポーツ英雄最終候補 金スニョン、朴ハンソ、李ボンジュ、故チェ・ドンウォン

2022 年、大韓民国スポーツ英雄の最終候補は、金スニョン（アーチェリー）、朴ハンソ（サッカー）、李ボンジュ（陸上）、故チェ・ドンウォン（野球）の 4 人に絞られた。




大韓体育会はこの 4 人を今年のスポーツ英雄最終候補者に確定し、19 日ホームページに公告した。

最終候補者に欠格事由がなければ、体育会は今月 27 日から 10 月 18 日までホームページで国民支持率調査を行い最終審議を経た後、来月末頃にスポーツ英雄入会対象者を決める予定だ。

歴代五輪で金メダル 4 個、銀メダル 1 個、銅メダル 1 個を獲得した「神宮」金スニョン（51）とベトナムサッカー代表チーム監督として韓国とベトナムをつなぐ民間外交使節として評価を高めた朴ハンソ（63）監督は、2 年連続スポーツ英雄の最終候補に上がった。

1996 年アトランタ五輪銀メダリストの「国民マラソンランナー」李ボンジュ（52）と「鉄腕」でアマチュアとプロ野球の初期を輝かせ、53 歳の若さで 2011 年永眠したチェ・ドンウォンが候補に新しく加わった。体育会はスポーツを通じて選手と青少年に手本となり、国民に大きな喜びと希望を抱かせた選手またはスポーツ貢献者（指導者・行政家・言論人など）を大韓民国スポーツ英雄に選定し、体育人の名誉と自負心を高めてきた。

最終候補者名簿

| | 最終候補者 | 主要業績 |
|---|--------------------------------|--|
|  | 金スニョン アーチェリー選手 (満 51 歳) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1988 第 24 回ソウル五輪個人 1 位 ・ 1992 第 25 回バルセロナ五輪個人 2 位、団体 1 位 |
|  | 朴ハンソ サッカー指導者 (満 63 歳) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2002 韓日ワールドカップ 4 強 (国家代表チーム主席コーチ) ・ 2002 釜山アジア大会 3 位 (国家代表チーム監督) ・ ベトナム国家代表チーム監督 (2017～現在) |
|  | 李ボンジュ 陸上選手 (満 51 歳) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1996 アトランタ五輪マラソン銀メダル ・ 1998 バンコクアジア大会マラソン金メダル |
|  | 故チェ・ドンウォン 野球選手 (享年 53 歳) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1980 東京世界野球選手権大会準優勝 ・ 1982 ソウル世界野球選手権大会優勝 |

歴代選定されたスポーツ英雄は▲2011年故ソン・ギジョン(陸上)、故金ヨンジプ(重量挙げ)▲2013年故ソ・ユンボク(陸上)▲2014年故ミン・グァンシク(スポーツ行政)、チャン・チャンソン(レスリング)▲2015年ヤン・ジョンモ(レスリング)、朴シンジャ(バスケットボール)、故金ウンヨン(スポーツ行政)▲2016年金ヨナ(フィギュアスケート)▲2017年チャ・ボムグン(サッカー)▲2018年故金イル(プロレス)、故金ジンホ(アーチェリー)▲2020年故チョ・オリョン(水泳)▲2021年故金ホンビン(山岳)だ。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220919139100007?input=1195m>

06 週刊スポーツニュース

文化体育観光部、「スポーツ振興計画」のために現場の意見もう一度聞く

<https://www.newspim.com/news/view/20220916000095>

私たちの時代が望む理想的な指導者になるためには[ハルクの日記]

<http://www.sportsseoul.com/news/read/1159839?ref=naver>

消えてしまった夢…KB0 ドラフトでトライアウト出身「指名ゼロ」

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220915141000007?input=1195m>

「あの子殴って」試合中、韓国人女性選手に暴行を指示した母親、処罰を受ける。

<https://www.joongang.co.kr/article/25102413>

シン・ギョンホ教育監、「テニス有望株」イ・ソア学生の全面支援

<http://www.kwnews.co.kr/page/view/2022091815114193359>

KUSF、2022 大学運動部学生選手素養教育開催

<https://news.unn.net/news/articleView.html?idxno=533892>

「公正と尊重」…KADA・スポーツ倫理センター業務協約

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220914156700007?input=1195m>

スポーツ倫理センター、障害体育人実態調査を実施

<http://www.ikbc.co.kr/article/view/kbc202209130022>

「一時的な結果より選手の成長に焦点を合わせるべき」U20 国家代表を輩出した汝矣島高の指導哲学

<http://osen.mt.co.kr/article/G1111941798>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。

皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。

体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>